

# 会長挨拶

石 崎 忠 司 (中央大学)

今夏の猛暑に地球温暖化が、身近に迫っていることを実感した人が少なくないと思われます。各部屋にエアコンが設置されキッチンに大型冷蔵庫が置かれるようになったのは、つい近年のことであり、猛暑においてもアメニティの確保された生活ができるようになりました。その一方で、以前にはそれほど目立たなかった社会の格差が拡大し、失業、就職難、倒産、自殺といった暗いニュースが絶えません。ロハスといわれる生活が標榜されていますが、恵まれた生活を前提にしているように思われます。逼迫した家計を前にしては、サステナビリティの理念が虚しく思えてくる人も少なくないと思われます。

日本社会関連会計学会の「社会関連」は、企業についていえば、企業が株主だけでなく、従業員、地球環境等に配慮した経営を行う社会的存在であることを指しています。猛暑の夏をやり過ごすだけでなく、企業の環境責任のあり方、市民の生活のあり方を真摯に考えてみる機会にしたいいものです。

「社会関連会計研究」第22号に掲載された論文の多くが環境をテーマにしており、温暖化対策を初めとして地球環境の維持にどのような対策があるかの糸口を示唆しています。いずれも前号と同様に質の高い論文であり、國部編集委員長の下で改革された論文の審査制度が定着したように思われます。第22号が、多くの研究者に一読していただける学会誌であることを疑いません。

2010年9月